

〔 茶 〕

本年は、春先の低温により一番茶の摘採期が全般的にかなり遅れ、一番茶後半に摘採が集中したため茶価が低迷した。二番茶は、一番茶摘採後の極端な少雨と乾燥により収量減となり品質も低下する傾向がみられた。第 1 表に九州における主要産地の「やぶきた」作況試験園のデータを抜粋して示し、以下に茶期毎の概況を記す。

1. 一番茶

九州の主要産地では、2～3 月の気温が例年よりかなり低く推移したため、萌芽が 1～6 日遅れた。4 月の気温は高く推移したものの、4 月中・下旬に気温の低い日があり、山間部では晩霜害がみられた。摘採期も例年より 1～6 日遅れ、特に早生品種や早場地帯での遅れが目立った。摘採期前後からは好天に恵まれて生育が進んだことから、早場地帯と遅場地帯の間隔が近づき、後半に摘み遅れ傾向がみられた。降水量は、2 月が多く、1 月と 4 月がかなり少なかった。作況試験園の収量は、平年並みか多収なところが多かったが、長崎で平年より大幅な収量増となっているのは、作況試験園が中切り後 2 年目で更新効果が現れたためであり、宮崎で収量減となっているのは、越冬芽が 3 月上・中旬に凍害を受けたためとみられた。また九州南部の沿岸地域に著しく減収した地域があり、前年の潮風害が影響したと考えられた。病虫害では、佐賀・宮崎・鹿児島でカンザワハダニが多く発生し、長崎ではチャノコカクモンハマキの発生ピークが約 1 週間、チャノホソガが約 10 日遅れることが確認された。鹿児島では、一部の地域に赤焼病の被害がみられた。

2. 二番茶

主要産地の 5～6 月の気温は平年並みか高めに推移したが、5～6 月の降水量は極端に少なく、梅雨入りも遅れた。摘採期は平年より 3～6 日遅れたが、これは一番茶が遅れたことに加え、少雨と乾燥の影響で新芽の成長が抑制され、一番茶から二番茶までの期間が平年より長くかかったためである。収量は全般に前年・平年値を大きく下回ったが、主として少雨と乾燥による成長抑制の影響が大きく、また南九州ではカンザワハダニとチャノキイロアザミウマの多発生による被害も減収の原因とみられた。カンザワハダニの発生は九州全域でかなり多かった。病害の発生は全般的に少なかった。

3. 三番茶

二番茶摘採後の気温は、各地とも平年並みかやや高めに推移し、降水量は 7 月上旬に特に多かったが、他の時期は平年並みであった。摘採期は平年より 3～6 日遅れ、収量は平年より宮崎では減少し、鹿児島では増加した。病虫害では、宮崎でチャノキイロアザミウマ、チャノミドリヒメヨコバイの発生が多かったが、他の地域では大きな被害がなかった。

第1表 作況試験園における収量等

産地名	年度	萌芽期 (月/日)	一番茶		二番茶		三番茶	
			摘採日 (月/日)	収量 (kg/10a)	摘採日 (月/日)	収量 (kg/10a)	摘採日 (月/日)	収量 (kg/10a)
福岡 (八女)	本年	4/8	5/3	782	6/23	479	-	-
	前年	4/5	5/2	685	6/18	673	-	-
	平年	4/3	5/1	612	6/17	479	-	-
佐賀 (嬉野)	本年	4/8	5/3	645	6/20	492	-	-
	前年	4/6	5/2	645	6/16	687	-	-
	平年	4/6	5/2	609	6/16	631	-	-
長崎 (東彼杵)	本年	4/11	5/7	761	6/20	276	-	-
	前年	4/5	5/2	461	6/16	315	7/22	291
	平年	4/4	5/2	570	6/17	348	-	-
宮崎 (川南)	本年	4/8	4/30	577	6/14	603	7/19	437
	前年	4/5	5/1	681	6/9	612	7/13	584
	平年	4/2	4/28	684	6/9	709	7/13	470
鹿児島 (知覧)	本年	4/5	5/2	640	6/15	462	7/21	436
	前年	3/28	4/25	521	6/8	604	7/16	510
	平年	3/30	4/26	606	6/9	533	7/16	405
鹿児島 (大隅)	本年	4/6	4/29	636	6/12	475	7/15	415
	前年	3/31	4/24	704	6/4	634	7/12	444
	平年	4/1	4/25	670	6/6	540	7/13	371